

都市の木質化講座を開催

●大学院生命農学研究科

大学院生命農学研究科は、9月17日(土)、10月30日(日)、11月5日(土)、12月17日(土)の4日間、連続講座「森と街を元気に、木で豊かなくらしをつくる WOODist の育成」を開催しました。

第1回は、農学部講義棟において、山崎真理子同研究科准教授が「木の科学～Wood Science & Engineering～」



建築用製材の強度試験に取り組む受講者（第1回）

と題して講習と製材の曲げ破壊実験を行い、木材の機械的性質やヤング係数の重要性、グレーディングについて学びました。第2回の「森のいま～Our Forest～」では、近藤 稔同研究科助教、山本一清同研究科准教授、豊田市の川合晃司氏らが講演し、森林の現状と将来、林業・林学的重要性について学んだ他、豊田森林組合等と連携し、豊田森林組合周辺の森林における調査で樹木の過密度を認識しました。第3回の「木の文化と可能性～Timber Culture～」では、株式会社東海木材相互市場大口市場において、株式会社東海木材相互市場の鈴木和雄氏と飯田工業株式会社の井本希孝氏が木材の生産／流通／加工の流れに関する講演を行った後、木材集積場等を見学しました。また、佐々木康壽同研究科教授が都市部の木造建築に関する中央ヨーロッパの事例を紹介しました。第4回は、農学部講義棟において、「これからの森づくり～Woodist makes Woodism～」をテーマに、参加者のブレインストーミングを通じて地域産木材の利用促進に向けた将来展望に関する提案がなされました。これを受ける形で愛知県の鍋田拓哉氏、山本剛久氏から森林資源及び木材利用促進の施策について説明があり、活発な質疑応答がなされました。

東山キャンパスで企画展「戦争と大学 ふたたび」を開催

●附属図書館医学部分館、大学文書資料室

附属図書館医学部分館と大学文書資料室は、11月25日(金)から12月26日(月)までの間、中央図書館2階ビブリオサロンにおいて、企画展「戦争と大学 ふたたび－軍医と銃後－」を開催しました。

この企画展は、本誌第282号の記事で紹介された、附属図書館医学部分館が6月から9月にかけて同館で実施した



「戦場と軍医」コーナー

同名の企画展を、東山キャンパスで開催したものです。平成26年8月の企画展「戦争と大学」は、本学の歴史に即した、専ら満州事変以後の戦争に関する内容でしたが、今回は大学も戦争も近代日本全体を対象としたうえで、軍医と銃後というサブテーマを設定しました。

東山での展示にあたっては、附属図書館医学部分館と大学文書資料室の共催とし、資料室の所蔵史料や作成パネルを増補して展示しました。増補した史料は、軍医になった名古屋大学医学部前身学校の卒業生のもの、パネルは軍医の速成を任務とした名古屋帝国大学附属医学専門部を紹介するもので、これらによって、展示内容が本学の関係者や地域の方々にとってより身近な内容になりました。また、鶴舞に比べて展示スペースをかなり広くとれることを考慮して、「近代日本の軍医とその養成」「戦場と軍医」「戦時下の大学と科学」「銃後の諸相と結末」という4つのコーナーを設けて展示を再構成しました。

鶴舞での展示を含め、この企画展の詳しい内容は、『名古屋大学大学文書資料室紀要』第25号（平成29年3月刊行予定）に展示記録として掲載される予定です。